

2020年度特別展のご案内

*展覧会名・内容・会期は変更になる場合がございます。

英国王室が愛した花々

キューガーデンとボタニカル・アート(仮称)

4月25日(土)～6月21日(日)

イギリスのキューガーデンは、ユネスコ世界遺産にもなっている世界最大級の植物園です。本展では、キューガーデンが所蔵するボタニカル・アートを紹介します。ボタニカル・アートとは、植物を科学的かつ芸術的な視点から描いたもので、イギリス王室と植物園の繁栄を背景として、美しい花々を描いた18世紀の優品をおもに展示します。また王室御用達ウエッジウッド社の陶磁器「クィーンズウェア」もあわせて紹介します。



シデナム・ティースト・エドワーズ
《ボタン(ボタン科)》1809年 水彩・紙

蜷川実花展-虚構と現実の間に-

7月8日(水)～8月30日(日)

独特な色彩感覚などで知られる写真家の蜷川実花。本展では「虚構と現実」をテーマに、彼女の様々な写真作品を紹介します。色鮮やかな花々を撮影した「永遠の花」、著名人ととらえた「Portraits of the Time」、父の死に向き合う日々を撮影し、新境地となった「うつしい日々」などのシリーズを展示します。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事にも就任し、ますます注目される蜷川実花の世界を堪能できる機会となります。



earthly flowers, heavenly colors (2017)
©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

クールベと海(仮称)

9月11日(金)～11月3日(火・祝)

ギュスターヴ・クールベ(1819～1877)はミレーらと共にレアリズム(写実主義)を代表する画家として知られています。画業後半には狩猟画や風景画を描き、高い人気を獲得しました。

本展では、クールベの風景画、とりわけ「海」を描いた作品について紹介します。クールベ以前の時代、そして同時代の画家たちが描いた作品も併せて展示することで、近代絵画の展開に大きな影響を与えたクールベの表現の特質を明らかにします。



ギュスターヴ・クールベ《波》1869年頃 油彩・カンヴァス ふくやま美術館

栗田宏一・須田悦弘展

11月14日(土)～2021年1月31日(日)

栗田宏一(1962～)と須田悦弘(1969～)は、日本での数多くの発表に加え、国際的にも活躍している現代アーティストであり、ともに山梨県笛吹市の出身です。栗田は、自ら訪ね歩いた地で一握りの土を採集し、それを展示するという手法を取ります。須田は、朴の木を削り彩色した植物の彫刻を、空間にさまざまなかたちで展示するインスタレーションを展開しています。

私たちの日常の中にもう一つの世界を開いてくれる、二人の作品をご紹介します。



栗田宏一(soil library)

須田悦弘(雑草)

アクセス

○中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

- ・料金を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貫川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

○JR中央本線甲府駅より

- ・甲府駅バスターミナル(南口)より御勅使・竜王駅経由で敷島営業所・大草経由で葎崎駅・貫川団地各行きバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
※甲府駅からのバスの時刻表は(山梨交通HP)よりお調べいただけます。
- ・タクシーで約15分。

○昇仙峡より

- ・敷島営業所行きのバスで「山梨県立美術館」下車。



種をまく 世界がひろく

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art

〒400-0065 甲府市貫川1-4-27

Tel:055-228-3322 Fax:055-228-3324

<https://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

<https://www.facebook.com/yamanashi.artmuseum> (facebook)

